

用手蘇生バッグ

「AMBU MARK III 人工蘇生器」

大阪大学 医学部附属病院 集中治療部 妙中信之

近年、わが国においても労働災害や交通事故などが多発し、また、心筋梗塞など救急蘇生を要する疾患が増加し、これに対する救急医療体制の整備が進められている。デンマークのAMBU社により製造発売されている「AMBU MARK III 人工蘇生器」は、ISO規格に適合した、さまざまな条件下で使用できる多くのオプションを備えた救急蘇生用バッグである。

従来の蘇生用バッグの欠点として吸入酸素濃度を上げにくいという点があげられたが、リザーバーバッグ（オプション）を装着することにより酸素濃度は100%にまで高められるようになっている。PEEPバルブ（オプション）の装着によりPEEPを必要とする患者の移送などにも使用できる。

また、バッグの構造は二重構造とし、外カバーに柔らかいクロロブレン、内側ライニングに硬いソリッドEPDMラバーが使用され、内側ライニングに8つの小孔を設けることにより、外から大きな圧がかけられても外カバーが局所的に膨らんで気道内圧が70mbar（≒ cmH₂O）以上にはならないよう工夫されている。

呼気・吸気を切り替えるベシヤントバルブにはシリコンゴムが使用され、これにより、流量が少ない場合にも前方漏れがなく、バルブの呼吸抵抗も少ないため自発呼吸による呼吸も行えるようになっている。

使用対象は約15Kgの小児から成人までである。

また、容易に分解できるシンプルな構造によりバッグの中まで洗浄することが可能であり、134℃でオートクレーブによる滅菌が

行える材質から、近年問題になっている院内感染症の防止が可能である上、AIDSなどの交差感染の防止も可能となる。

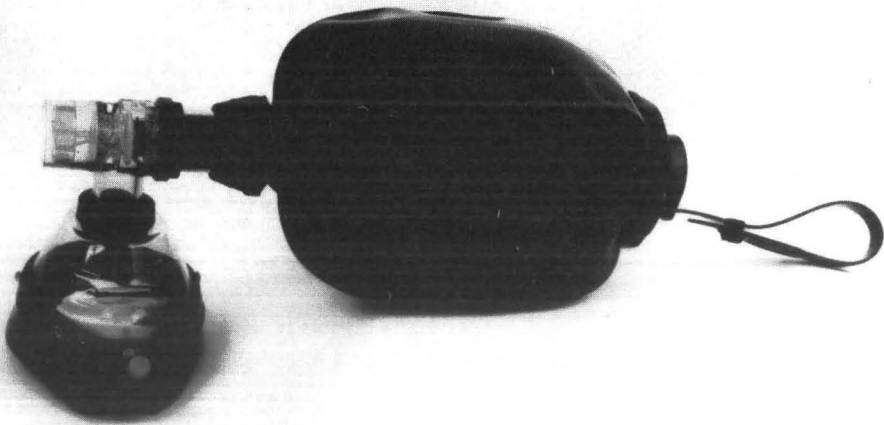
火災現場において新建材から発生する毒性ガスが大きな問題となっているが、ガスフィルターもオプションとして用意されている（しかし、これは戦場などでの使用を考慮したものか）。

バッグの構造・性能などとは直接関係ないが、フェイスマスクの形が工夫されており、蘇生者の左手親指をそえる部分がくぼんでいてマスクの装着がやりやすい点は实际的である。

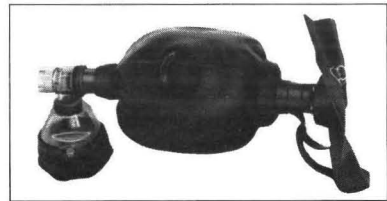
「AMBU MARK III 人工蘇生器」は、以上のように完成度の高いものであり、救急蘇生や集中治療の場で応用範囲の広いものといえる。

アンブ人工蘇生器 マークⅢ

アンブ社の技術陣が総力を結集してつくりあげた
人工蘇生器の最高傑作マークⅢ



- 強くてもしなやかなクロロブレンゴムカバーが長時間操作にも疲れを感じさせません。しかも、わずかな気道抵抗も指先で感知できるフィンガーチップフィーリング。
- オートクレープ滅菌できる耐熱材料を使用（酸素リザーバーバッグを除く）。
- 洗浄や滅菌を行うための分解・組立てが容易な構造。
バ ッ グ：外装ゴムカバーに、インナーバッグが容易に着脱できる大口フランジ。
蘇生マスク：誤った組立てができない取付ネジと装着部。
- 自由に酸素濃度が調節できます。酸素リザーバーバッグを装着すると酸素濃度100%も可能。



〈仕 様〉

容 量：約1300ml
圧力限界：70cmH₂O
呼吸抵抗：呼気1.5cmH₂O、吸気1.0cmH₂O
(流量 50L/分において)

Ambu 
デンマーク アンブ社

承認番号：61B輸第47号

日本総代理店
 株式会社 松本医科器械
MATSUMOTO MEDICAL INSTRUMENTS, INC.
541 大阪市中央区淡路町2丁目4-7
TEL (06) 203-7651 FAX (06) 226-1713

東京支店 TEL (03) 3814-6683 FAX (03) 3815-4341
札幌 (011) 727-8981 仙台 (022) 234-4511 横浜 (045) 423-3911
名古屋 (052) 264-1481 金沢 (0762) 23-5221 広島 (082) 223-4571
福岡 (092) 474-1191